

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

岡山フリーペーパー
FREE vol.22
SEP 2016



2016 9.27
EXILEデビュー15周年記念 究極のベストアルバム
「EXTREME BEST」
RELEASE!!!

SPECIAL FRONT FEATURE

EXILE

15th ANNIVERSARY

OKAYAMA

MOVE UP

SPECIAL INTERVIEW-1-

池松 壮亮

SPECIAL INTERVIEW-2-

山崎 秀晃

SPECIAL INTERVIEW-3-

高梨 臨

SPECIAL COLUMN

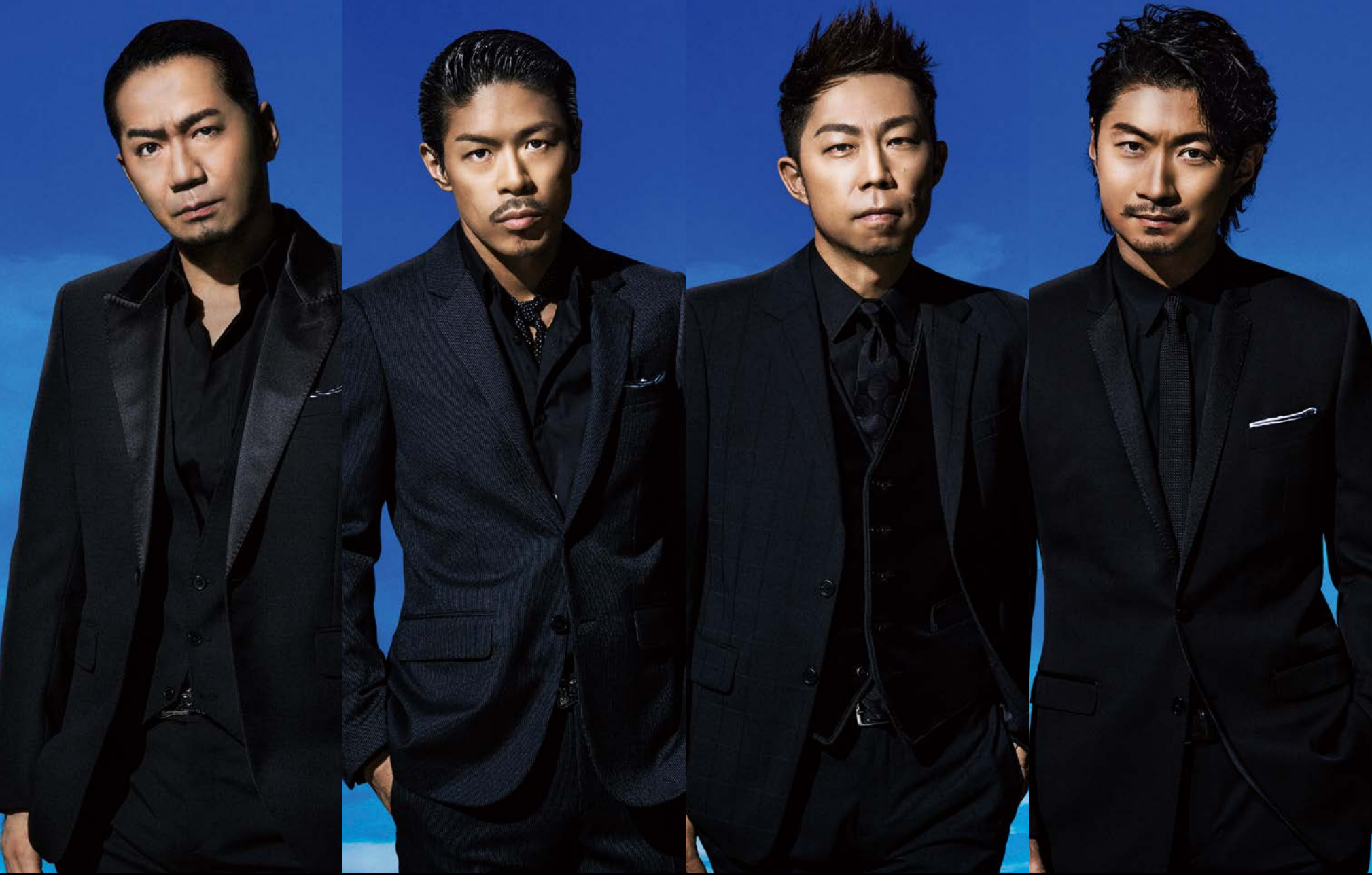
EXILE TETSUYA

SPECIAL PHOTO REPORT

JAPAN MOVE UP special edition vol.9

DANCE EARTH PARTY

EXILE ŪSA / EXILE TETSUYA / Dream Shizuka



EXILE 15年が分かる！

『EXTREME BEST』9.27 on sale





『EXILE 15 年分の進化と成長を体感せよ!』

デビュー 15 周年を迎える EXILE が、彼らのデビュー日 (9 月 27 日) に放つベストアルバム『EXTREME BEST』は、その名の通り“究極のベスト”と言えるだろう。デビュー曲「Your eyes only ～曖昧なぼくの輪郭 (カタチ)～」から最新シングル「Joy-ride ～歓喜のドライブ～」までのシングル曲 (45 曲)、06 年に TAKAHIRO が EXILE に加入した第二章以降のミュージックビデオ全 53 作を収録した今作は、第一章から第五章までの EXILE の軌跡を刻んだ集大成的な作品だけに、EXILE のどの時代から入った人でも、彼らの 15 年間の歴史が楽曲や MV によってパーフェクトにわかるベストになっている。

今でこそ“ダンス & ボーカル グループ”というジャンルや形態は多くの人たちに認知されているが、EXILE がデビューした 15 年前を振り返れば、男性ボーカル 2 人

とダンサー 4 人という形態の男性グループは珍しく、デビュー曲「Your eyes only ～曖昧なぼくの輪郭 (カタチ)～」や「song for you」のようなメロウな楽曲で、ダンサーたちがボーカルと対等な立ち位置でパフォーマンスをしている姿に衝撃を受けた人も多かったはずだ。ダンサーがボーカルのバックで踊る装飾的な存在としてではなく、それぞれの個性をアプローチできる場を作り、楽曲が持つ世界観をダンスでも表現するパフォーマーへと進化する。それが次世代のダンサーたちに大きな影響と刺激を与え、EXILE の活躍によって将来ダンサーになりたいという夢を持つ子供たちが増えたことを思うと、デビュー当時から彼らは将来を見据えた EXILE にしかできない未来に向けたエンタテインメントを明確に世に放っていたことになる。

今回のベストに収録された第一章の楽

曲は、TAKAHIRO のボーカルで再録音したバージョンが収録されているが、TAKAHIRO は自らが EXILE に加入した第二章以降のライブやレコーディングで積み重ねてきた経験を歌に昇華させているのも聴きどころのひとつ。TAKAHIRO が EXILE のボーカルになって 10 年の月日が経つが、ATSUSHI と TAKAHIRO による第一章の楽曲に新たな輝きを見ることができる。また、今作を聞けば、EXILE のバラードやミディウムナンバーは、どんなに時を経ても色あせない世界を持っていることがわかるだろう。「ただ…逢いたくて」「Lovers Again」「Ti Amo」「あなたへ」「情熱の花」など、ここに書ききれないほど数多くある至極のバラード曲たち。それらの楽曲に刻まれた繊細な心模様を、時に切なく、時に情熱的に歌う ATSUSHI と TAKAHIRO。彼らの高いボーカル力と細やかな表現力を、こ

のベストで再確認できるはずだ。

自分たちのルーツであるブラックミュージックや HIP HOP、R&B の要素を落とし込みながらも、「Together」や「Carry On」のようなカラオケで歌える楽曲、また ZOO のカバー曲「Choo Choo TRAIN」でメンバーが縦に並びグルグル回るダンスをアレンジして取り入れるなど、第一章当時から EXILE のエンタテインメントは、みんなで楽しめるポイントをいくつも持っていたが、それらは 15 年 12 月にリリースした 47 枚目のシングル「Ki・mi・ni・mu・chu」で覚えやすいメロディや誰もが簡単に真似できるサビ部分のフリにしっかり継承されているとっていいだろう。また「Choo Choo TRAIN」以外にも EXILE は「LAST CHRISTMAS」(Wham!) など、世代を超えて聞かれ続けてきた歌をカバーしているが、EXILE はカバーブームが起こる



前からカバーをやり、こんなにも数多くのオリジナルのヒット曲があるにも関わらず、EXILEのライブ定番曲としてメニューに加えてきた。「EXILEのエンタテインメントで、多くのみなさんを笑顔にしたい」という思いは、彼らがカバーした曲たちにもしっかり刻まれているのだ。DISC-1に収録した、GLAY×EXILE名義で05年にリリースした「SCREAM」。GLAYのメンバーとHIROは以前から交流があったとはいえ、ロックバンドとダンス&ボーカルグループの意外な組み合わせのコラボにはファンのみならず、双方にこんな一面もあるのかと誰もが驚かされた楽曲だ。しかし、この意外な組み合わせのコラボは、年月を経て、TAKAHIRO、GLAYのHISASHIらが結成したバンド・ACE OF SPADESへと繋がり、今年リリースした『HIGH&LOW ORIGINAL BEST ALBUM』にACE OF SPAD

ESが参加するなど、世代を超え、カタチを変えて継承されている。

09年に二代目J Soul Brothersが加入し、14人体制となった第三章のEXILE。三味線の吉田兄弟が参加した「FIREWORKS」、松尾潔と「Lovers Again」「Ti Amo」以来再びタグを組んで作り上げた踊れるバラード「ふたつの唇」、あえてダンスがない「もっと強く」、大規模なセットの中でEXILE、EXILE TRIBEらがパフォーマンスする壮大なMVが目玉された「Rising Sun」など、EXILEエンタテインメントの継承、EXILEにしかできないエンタテインメントを様々な試みを施した楽曲で届け続けていたのがわかる。

13年のHIROのパフォーマー勇退を受け、14年に岩田剛典、白濱亜嵐、関口メンディー、世界、佐藤大樹の5人が新パフォーマーとして加入し、第四章をスター

トさせたEXILEは新体制第一弾シングル「NEW HORIZON」、そして「情熱の花」の後、「24karats GOLD SOUL」をリリース。「24karats」はこれまで、「EXILE」のみの名義のリリースはなかったが、19人体制となった第四章で、ATSUSHI、TAKAHIROのボーカルによる「24karats GOLD SOUL」を放ち、新体制の勢いと力強さを思う存分にこの楽曲に反映させている。この曲の次に収録されている「AMAZING WORLD」は、シングル曲ではないが、EXILE第四章初、松本利夫、ÜSA、MAKIDAIがパフォーマーとしてはラストとなったドームツアー「EXILE LIVE TOUR 2015“AMAZING WORLD”」のテーマソングで、今回のベスト盤で再収録となった。松本利夫、ÜSA、MAKIDAIのパフォーマーとしての勇退を受け、EXILEは第五章へと突入する。また、DVD&Blu-ray盤に

は、「EXILEのルーツであるダンスへ恩返しをしたい」というHIROの想いから制作された、EXILE、三代目J Soul Brothers、GENERATIONS、THE RANPAGEの全パフォーマー31名、国外のレジェンド・ダンサー22名、国内のトップ・ダンサー12名、総勢65名が参加したダンス・エンタテインメント映像作品「UNITED DANCE NATION in FUNK JUNGLE」が収録されている。

EXILEの歴史はカタチを変え進化と成長が繰り返されているが、彼らは口を揃えて“for EXILE”と言う。そう、EXILEは結成当初から未来のEXILEのために動き続けているのだ。

(松浦靖恵)



『EXTREME BEST』9.27 on sale

収録曲：DISC1: CD

01. Your eyes only ～曖昧なぼくの輪郭^{カタチ}～
02. Fly Away
03. song for you
04. We Will ～あの場所で～ -Orchestra Version-
05. Together
06. Choo Choo TRAIN
07. Carry On
08. 運命のヒト -Orchestra Version-
09. real world
10. HERO
11. EXIT
12. ただ … 逢いたくて
13. SCREAM / GLAY × EXILE
14. Everything
15. Lovers Again

収録曲：DISC2: CD

01. 道
02. SUMMER TIME LOVE
03. 時の描片 ～トキノカケラ～
04. 24karats -type EX- / Sowelu, EXILE, DOBERMAN INC
05. I Believe
06. Pure
07. You're my sunshine
08. Ti Amo
09. LAST CHRISTMAS
10. Someday
11. FIREWORKS
12. ふたつの唇
13. VICTORY
14. 24karats STAY GOLD
15. もっと強く

収録曲：DISC3: CD

01. I Wish For You
02. Each Other's Way ～旅の途中～
03. Rising Sun
04. あなたへ

05. ALL NIGHT LONG

06. BOW & ARROWS
07. EXILE PRIDE ～こんな世界を愛するため～
08. Flower Song
09. No Limit
10. NEW HORIZON
11. 情熱の花
12. 24karats GOLD SOUL
13. AMAZING WORLD
14. Ki・mi・ni・mu・chu
15. Joy-ride ～歓喜のドライブ～

収録曲：DISC4: DVD / BD

- 【Music Video】
01. Everything
 02. Lovers Again
 03. 道
 04. EVOLUTION
 05. SUMMER TIME LOVE
 06. 時の描片 ～トキノカケラ～
 07. 24karats -type EX- / Sowelu, EXILE, DOBERMAN INC
 08. I Believe
 09. Touch The Sky feat. Bach Logic
 10. Pure
 11. Choo Choo TRAIN
 12. 銀河鉄道999 / EXILE feat. VERBAL (m-flo)
 13. real world
 14. SUPER SHINE
 15. Eastern Boyz 'N Eastern Girlz
 16. Ti Amo
 17. Your eyes only ～曖昧なぼくの輪郭^{カタチ}～
 18. ただ…逢いたくて
 19. 僕へ
 20. Love, Dream & Happiness

収録曲：DISC5: DVD / BD

- 【Music Video】
01. The Beginning Of EXILE GENERATION
 02. Someday



【3CD+4DVD】 ¥6,980（税別） / RZCD-86179 ～ 81/B ～ E ※初回盤：三方背 BOX 仕様 / デジパック / 84P フォトブック収録 【3CD+4Blu-ray Disc】 ¥7,980（税別） / RZCD-86182 ～ 4/B ～ E ※初回盤：三方背 BOX 仕様 / デジパック / 84P フォトブック収録 【3CD】 ¥3,500（税別） / RZCD-86185 ～ 7 ※初回盤：三方背ケース

03. FIREWORKS
04. 優しい光
05. ふたつの唇
06. 愛すべき未来へ
07. VICTORY
08. 24karats STAY GOLD
09. 願い
10. もっと強く
11. I Wish For You
12. Each Other's Way ～旅の途中～
13. Rising Sun
14. あなたへ
15. This Is My Life

■ DISC6: DVD / BD

- 【Music Video】
01. ALL NIGHT LONG
 02. BOW & ARROWS
 03. あの空の星のように …

04. Bloom
05. EXILE PRIDE ～こんな世界を愛するため～
06. Flower Song
07. No Limit
08. PERFORMER'S PRIDE
09. NEW HORIZON
10. Craving In My Soul
11. 情熱の花
12. DANCE INTO FANTASY
13. Believe in Yourself
14. 悲しみの果てに …
15. 24karats GOLD SOUL
16. AMAZING WORLD
17. Ki・mi・ni・mu・chu
18. Joy-ride ～歓喜のドライブ～

■ DISC7: DVD / BD

UNITED DANCE NATION in FUNK JUNGLE

巨匠・東陽一監督が放つミステリー
『だれかの木琴』で、東監督から受け取った思いとは。

池松壮亮

Sosuke Ikematsu

平凡な主婦・小夜子の心の隙間に、ふと入り込んだ美容師・海斗。彼女はやがて、抑えきれないほど海斗への執着を強めていく…。『わたしのグランパ』の名匠・東陽一監督が、直木賞作家・井上荒野の原作をもとに複雑な思いが重なり合い、ねじれていく男女の関係をスリリングに描いた映画『だれかの木琴』。海斗を演じたのは、2014年の映画賞を総なめにした同世代を代表する俳優・池松壮亮。作品の規模やジャンルを問わずに挑む、映画俳優としての生き方を語る！



撮影・上岸卓史

映画には“魔力”があって、 幸福な瞬間が訪れることを、信じつつけてしまおうんです。

池松壮亮（以下：池松）「不倫とかストーリーとか、一見いかにもドロドロの男女関係を描いた作品では、と思われがちなんですけど東監督が描きたかったのは、そこではないんです。そういうドロドロを期待して作品をご覧になると、予想していない形で引き込まれると思います（笑）」

静かに変貌していく小夜子。戸惑いながらも、その変貌を見届けようとするかのように、小夜子と向き合う海斗。ミステリアスな物語が浮き彫りにするのは現代人の孤独だ。「僕が本作を興味深く感じたのが、現代に生きる人間の孤独、それを飄々と見つめる監督の目線でした。小夜子でもなく、海斗でもなく、監督は、ある意味“神の目線”に立っている気がしました。監督は、人間の孤独を否定も肯定もしていない。監督の思いは、ラストで描かれる小夜子の姿に現れていると思います」

これまで官能的な題材にも幾度となく挑んできた池松が、東監督作品で、常盤貴子演じる主婦の心をとらえる美容師を演じるとなれば、確かにあらぬ期待をしてしまうかも…。「まあ、僕が観客でも“またお前か”と思うでしょうね（笑）。東監督が官能的に見せたいと思えば、いくらでもやれるでしょう。僕もこれまで、そういう作品をやってきましたし。ただ僕は、現代でいうところの“色気”という言葉をまったく信じていないんです。そんなの、やろうと思えば誰だってできるくらいのものだと思うんです。モテるタイプが時代によって変わるようなもので、昔とは価値観が変わっただけなんだと思いますが、僕が信じている色気というのは今、世に氾濫しているものとはだいぶ違うんです」

小夜子が見せる、謎めいた微笑み。小夜子の髪に触れる海斗の指。ハッとする“色気”がそこにはある。



「東監督ご本人も、すごく色っぽい方なんです。あれは背負ってきたものがある人が持つ、人間としての色気なんでしょうね。僕を感じる色っぽさというのは、その部分に宿るように思います」

東監督は現場でキラキラしてるんですよ、と目を輝かせる池松。「少年みたいに、本当に楽しそうなんです。映画に人生をかけてきた人と26歳で出会えて、その映画屋人生の片鱗を少しずつ見せてもらいながら、何かを吸収しようと必死になって…。昔の、僕が出会えなかった黒澤明や小津安二郎、成瀬巳喜男といった映画監督たちの作品を見れば、そのときの思いはフィルムに刻まれている、すべてではなくても受け取ることができる。でも今回は直接、一番近くで思いを受け取ることができた。本当に幸せだと思いました」

普段、監督とはどんな会話を？「最近見た映画の話なんかもしましたね。悪口で盛り上がりました（笑）。映画談議を81歳の巨匠と楽しめるなんて改めて映画という共通言語を持ったことの幸せを感じました。僕はもともと作品を見ると、それを撮った監督と気が合うかどうか、なんとなく分かるんです。ほとんど狂いがないですね」

池松が一緒に仕事をしたいと感じる作り手とは？「人を信じている人。それはやはり、映画とは、人が作って人に見せるものだから。現場に人がいて、その先にはお客さんがいて。顔が見える人見えない人、いろんな人たちが関わって、さらにはその作品が生まれる背景にも多くの映画があって…。だから“人”に興味がないという人には、僕もあまり興味はないです」

今年は10本近い出演作が公開になる。「今年はとくに公開本数が多くなっているんですけど、小さな役もやらせていただいていますし、撮影期間が短いものも多いですから。本作は2週間、『セトウツミ』

は1週間くらいでした。実質、1年のうち半分くらいしか現場で働いてないんじゃないかな（笑）」

本人はそう笑うが、これは一つの作品に集中するためでもある。「1年とか長期間かける作品は別として、基本的には撮影中の映画を同時に複数抱えるということを、僕はしていません。お話を頂いたときにダブっていたら、それは縁が無かったと端から諦めます。やっぱり、責任を持って一つの役に集中したいという思いがあるので」

子役として映画デビューを果たした池松だが、高校卒業時に退路を断つほどの覚悟で役者の道へと進んだ。「高校まで福岡にいたんですが、もう地元には戻れないという思いで上京しました。それまでは学校生活があって、野球をやったりもして、たまに役者の仕事があるという感じでしたが、そのときに優先順位が変わったんです。大学の映画学科に進んだのも、ある意味逃げ場をなくすためでもあったし、今まで漠然と映画に出てきたけど、自分がどんな世界に立とうとしているのかをちゃんと理解したかった。大学での4年間は必死に映画を見漁って、芝居について、俳優について考えて。みっともなくらい必死でしたね。映画に魂を売ったかというくらい」

退路を断つほどの覚悟を決め、みっともないほどのめり込みながらも、遊びを感じる姿勢を失わない。「10代のころから映画屋と呼ばれる人たちに会ってきたので、その影響だと思います。彼らはみんな共通して、すごく不真面目ですごく真面目。それを行き来している感じがすごくカッコよくて。彼らの姿に学んだことは、常に心のどこかで意識しています」

静かな語り口調の中にも、ユーモアとひたむきさ、情熱が混じる。まさに映画屋の血筋。「なぜかネガティブなタイプと思われがちなんですけどね（笑）。普通にシンプルな人間なんです。オフの日も映画を見たり、コーヒー飲みながら本を読んだりしかしてないし。最近、見て面白かったのは『デッ

ドプール』。この手があったか、やられた、と思いました（笑）」

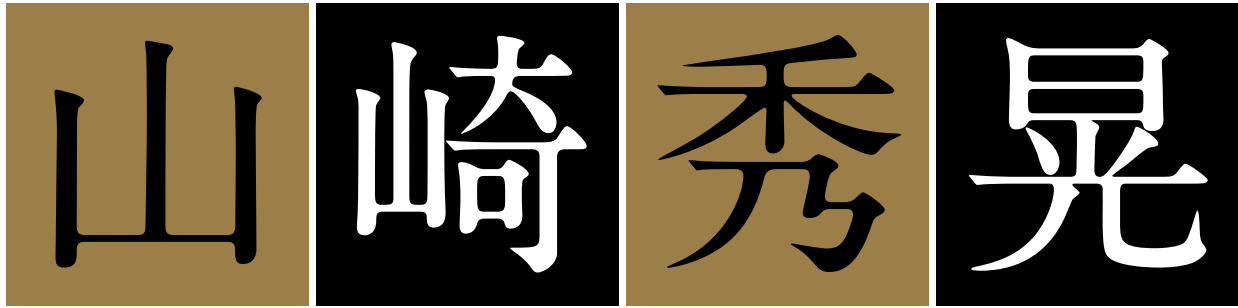
最後に、池松にとって俳優の醍醐味を感じる瞬間とは。「それは突然、訪れるんです。撮影中なのか、完成したときなのか、お客さんに届いたときなのか。1作品に必ず訪れるというものでもなく、ひどいときには何年も感じられない時期もありました。でもやっぱり映画には魔力みたいなものがあるって、その瞬間が必ず来ると信じつつけてしまう。映画の世界にいるから、役者をやっているからこそ、得られる幸せを確かに感じています」

これからも彼は役者として多くを背負い、肥やしにしていくはず。それが彼の“色気”の源なのだ。

PRESENT

池松壮亮さんから読者3名にサイン色紙をプレゼント！
応募・詳細は19面にて。





盛り上がりを見せる新生K-1で、中心となり活躍しているファイター・山崎秀晃。主戦場としていたKrushでは、－65kgと－63kgで王者となり、2階級を制覇。そのままの勢いで出場した、K-1 WORLD GP 2016 ～－65kg日本代表決定トーナメント～では、並み居る強敵を押さえ、優勝を飾った。自分を形成したという高校時代を岡山で過ごした山崎が、岡山の思い出と格闘技にかける熱い思いを語る。

20年を超える格闘技人生で一番厳しい練習をしたのが岡山の高校時代。それがあったから今の自分がある。大切な仲間との出会いも含め、今の僕が形成された岡山は第二の故郷です。

親元を離れ15歳で単身岡山へ

出身は京都なんですが、高校は空手のスポーツ特待生として、おかやま山陽高等学校に入学しました。小さな頃から空手をやっていて、それなりの成績を残していたので、お声をかけていただいたのですが、もともと自分の通っていた道場の先輩もその学校にスポーツ留学をしていたこともあり、道場と学校は縁があったので、自分もそんなに抵抗はありませんでした。ただ、15歳で親元を離れるという事、そして初めての寮生活という事にはものすごく不安はありました。今振り返ると、よ



く決断したなと思いますね。しかし、それを決断したのは、やはり空手が強くなりたかったから。その時は分からなかったけど、その時に岡山に行かなければ今の自分はなかったと思うので、そういう意味では人生の転機が岡山だったといえるんじゃないかな。イメージ…行く前は桃太郎のイメージしかなかった（笑）。京都からしたら田舎だし、学校も寮も田舎のほうにあったので、行く前とあまり印象は違わなかったですね。まあ、田舎です（笑）。自分が住んでいた寮は新倉敷駅の近くで、学校が寮から自転車で50分ぐらい。空手部は電車を使ったらダメなんです。雨の日はカッパを着て自転車なので、入学の時にカッパを買わされました（笑）。軽い自転車を買って、明日から張り切って行こうと思っていたら、先輩に自転車を取られて、ボロボロの錆びた自転車で通学したことも何度もありました（笑）。それはもう、先輩には逆らえないですから。岡山の思い出は、とにかく空手の練習が厳しかった事しかないです。高校生だったので、休みの日に駅前に繰り出して…なんて思わなかったし、近くのゲームセンターに行くぐらいでしたね。洋服を買っていても坊主頭だし、眉毛も剃ったらダメ、携帯電話も禁止。だからファッションに気を使うという発想もなかった（笑）。でも、いつも思うのは、岡山時代がなければ、今の自分はないということ。そして、岡山では一生付き合っ

ていこうと思える友達ができたのが財産です。空手部の仲間だけではなく、クラスメートは京都から来たバリバリの関西弁の僕を受け入れてくれたし、今でもすごい強い絆で結ばれている。そんな友達との体育祭とか文化祭はいい思い出ですし、その友達たちが僕を応援するグループラインとか作ってくれたり、わざわざ試合会場に応援に来てくれたり。本当にちゃんぽらんな自分にみんなよく付き合ってくれたなと感謝です。

応援してくれる人たちの声で続けてこられた

岡山の高校を卒業し、京都に帰り専門学校に入学したんですけど、なんかちょっとしっくり来なくて…。6歳からずっと空手をやっていたので、闘わないと物足りない自分がいた（笑）。それで軽い気持ちで街のボクシングジムに通い始めたんです。3年間の専門学校在学中、ジムに通っていて、だんだんとアマチュアの大会に出るようになり、結構簡単に優勝とかしちゃったんですね。それで勘違いも入りつつ、当時全盛期だった魔裟斗選手に、本気で挑んだら勝てるんじゃないかと（笑）。それで、挑戦してみるのもありかなと思い、上京して本格的に格闘家を目指すことにしました。K-1に出たいというのが大きな目標だったので、上京後はK-1に出ている選手が多いジムに行こうと思い、今所属しているチームドラゴンとシルバーウルフに見学に行こうと。最初にチームドラゴンで

前田先生にお会いしたんですけど、“明日も見学においでよ”と言われて。見学は1日でもいいんだけどなって思ったんですけど、行ったら“家を紹介してあげるから選んでおいで”って不動産屋さんの担当者の名刺を渡された（笑）。でも、まあそこまで言ってくれるなら、ここで人生を変えてやろうと思い、チームドラゴンにお世話になることにしました。結局シルバーウルフには見学にも行かなかった（笑）。でも、結果的には今のジムに入って良かったと思っています。今、21歳の自分に声をかけられるなら、“よくチームドラゴンを選んだな。結果的に正解だぞ”って言いますね。で、上京して2～3年後に魔裟斗選手が世界王者になったんですが、そこからK-1がずたれていって…。苦しい時にも、絶対にK-1に出るということをモチベーションにやってきたので、K-1という舞台がなくなってしまった時はどうしようと…。ただ、その時はKrushでチャンピオンとしてやらせてもらっていて、応援してくれる人もすごく増えていたので、K-1がなくても、自分のキックボクシングにかけた人生を最後まで全うしようという思いで戦っていました。その後、新生K-1として復活し、今盛り上がりを見せているのは、素直にうれしいです。ただ、念願のK-1の舞台に立ててうれしいというより、もうひとつ大きな舞台で勝つことで、応援してくれる人たちをまたワンランク上の喜びに持っていけるのがうれしいという感覚でしたね。上京して10年、応援してくれる人に励まされて続けてこられたというのがあります。



因縁のリベンジマッチ

9月19日には、2年前に大怪我を負わされて負けたゲーオとのタイトルマッチがあります。僕を応援してくれる、見てくれる、携わってくれる人たちは、いつか倒してくれと思っていると思いますし、自分自身、倒せるところまできたと思う。決まった以上は必ず勝ちますし、それも僅差ではなく、誰が見ても明確な差が出るような勝ち方をする。そしてチャンピオンベルトを取って、仲間の人々と分かち合いたい。それを見ているファンの人たちも、やっぱり山崎の試合は面白いと感じていただき、また火がついてくれたら面白いと思います。人生かけて勝ちます。

夢を持つことは覚悟がいる

僕は夢を持つことに対して結構シビアで、厳しい目で見ています。夢を持つこと

はいい事ですが、それに向かってがむしゃらに努力できる人しか夢は叶わないと思うし、その覚悟がなければ、その夢を追うのはやめたほうがいい。誰もが1番になれるわけじゃないし、本当に社会は厳しいです。実際、夢ばかり追いかけて挫折する人のほうが多い。だから夢は追い続けられれば必ずかなうなんてきれいな言葉はあまり好きじゃない。でも、それに向かって誰よりも努力をすれば、頂点にも行けるんです。生半可な覚悟なら僕はやめたほうがいいと思うけど、逆に本気なら死ぬ気でやれと。僕自身、一番厳しい練習をした岡山で過ごした時間がなければ、今自分はここに立っていない。それだけやって、今の自分がいます。そんな自分の姿を岡山の方に見ていただき、何か感じてもらえたらうれしいです。

1987年2月5日生まれ、京都府出身。2008年、上京し現在も所属するチームドラゴンに入門。2009年6月14日に22歳でプロデビューを果たす。2013年3月20日にKrush -63kg王座を、2015年11月14日にはKrush -65kg王座を獲得している。2016年3月4日 K-1 WORLD GP 2016 ～～65kg 日本代表決定トーナメント～に出場し、準々決勝で左右田泰臣を2RKO、準決勝で久保優太を3RKO、決勝で野村正明を判定で下し、優勝。第4代Krush -65kg王者。第3代Krush -63kg王者。2016年9月19日（月・祝）東京・国立代々木競技場第二体育館では、K-1 WORLD GP スーパー・ライト級タイトルマッチに出場。ムエタイ新最強伝説を誇るゲーオ・ウィラサクレック（WSR フェアテックスジム）に挑む。K-1ジム・チームドラゴン所属。

PRESENT

山崎晃晃さんから読者3名に
サイン色紙をプレゼント！
応募・詳細は19面にて。

撮影・上岸卓史

今度はゆっくり岡山観光を…
でもやっぱり赤磐に戻りたいかな (笑)

高梨 臨

Special Interview

日本の第一次産業で働く人々の姿を描く『種まく旅人』。その第3弾は『半落ち』『陽はまた昇る』の名匠・佐々部清が、岡山県赤磐市の桃農家を舞台に描く、夢と絆の物語！ 亡き兄の夢を受け継ぎ桃の新種登録を目指す主人公を演じるのは、巨匠アツバス・キアロスタミ監督作『ライク・サムワン・イン・ラブ』に主演し注目を集め、ドラマ『花子とアン』『不機嫌な果実』など話題作に出演が続く高梨臨。ロケを終えて赤磐が第二の故郷に!?

地方ロケはけっこう大変だったりするんですけど、今回、赤磐で撮影した3週間は本当に楽しくて、東京に戻るのが名残惜しくなるほどでしたね」と、とびきりの笑顔を見せる高梨臨。今回の岡山県赤磐市でのロケは、とても充実したものとなったと振り返る。

今回、高梨が演じたのは亡き兄の夢を継ぎ、桃を育てる主人公。
「私が演じた片岡彩音は、女優になるという夢をあきらめて地元に戻ってきて、赤磐市役所に勤めながら、亡き兄の夢を受け継いで桃農家もやっているという、すごく大変なことをこなしている女性。とても強い子なんだろうなという印象を持ちましたね。ただ、強いからこそ一人で頑張りすぎてしまうところがあるんです。そんな彩音が、斎藤工さん演じる治との出会いや、地元の人々との触れ合いを通して、自分は一人じゃないということに気付いていく姿を、等身大の演技で表現できれば、と思いました。あとは桃の扱いですね。本当に触れるのも怖かったんですが (笑)、農家の

方に指導していただきながら頑張りました。撮影中は、桃やマスカットなどの差し入れを連日頂いて、幸せでしたね (笑)」

女優になるという夢をあきらめて家族ために桃農家となった彩音の思いを、どう受け止めた？
「私自身、子供のころからいろんな夢を持っていました。学生のころは漫画家になりたかったんですよ。自分でノートに自作の漫画を描いていた時期もありました。でも自分には漫画の才能が無いことに気づいて、本気で目指す前にあきらめたんです。でもその後、スカウトをきっかけに芝居の道に進むことになったので、夢をあきらめたというより新しい夢ができたという感じです。女優になってからも、夢という目標が次々とわいてくるので、夢が無くなることは無いですね (笑)。きっと彩音も新しい夢を手に入れたことに気付いたんじゃないかな、と思います」

佐々部清監督の印象は？
「第一印象は厳格そうで、厳しい方なのかなと思ったんですけど (笑)、実際はとても気さくで役者やスタッフみんなに愛情を持って接してくださる方でした。私は昭和のころの古い日本映画が好きで小津安二郎などの作品をよく見るんですけど、佐々部組の現場では、なんだかその憧れの世界に自分が立っているような感覚になりましたね。監督はまさに良質な日本映画を作り続けてきた方ですし、佐々部組のカメラマンやスタッフさんもベテランの方々ばかり。そういう現場でお芝居できたことは、本当に勉強になりました。完成した作品を見て改めて、佐々部監督は、人をきちんと描く方だと思いました。赤磐という土地を舞台にしながら、人と人のつながりのなかで生まれる物語を大切に描いている。佐々部監督のお人柄もあるのかもしれないですね。映画の現場に慣れていない役者さんがいても、現場になじめるような環境を自然と作ってくださるんです。カラオケに誘ってくださったりして (笑)」

一見、軽そうなエリート官僚・治に反感を抱いた彩音。しかししだいに2人は心を通わせていき…。
「斎藤さんとはこれまでも共演した経験がある



撮影・髙野裕

ので、すぐに息の合ったお芝居ができたと思います。本当に面白い方なので、いつもみんなを和ませてくれますし (笑)。私も斎藤さんも映画好きなので、撮影の合間は映画談議で盛り上がっていました。斎藤さんは佐々部監督の作品もすごくよくご覧になっていて、いろいろお薦めも教えてもらいました」

印象的だった赤磐の風景とは…。
「桃畑の防蛾灯です。夜明け前に防蛾灯を点けるシーンの撮影を行ったんですが、着いた瞬間、本当に幻想的な光景が広がって本当に感動的だったんです。これまで防蛾灯というものの自体、知ら

なかったんですが、あの光景はもう忘れられないですね。ホテルやコンビニが無かったりもしますが (笑)、赤磐の風景は私には特別なものになりました。岡山に来たら、また赤磐に戻りたいです (笑)。農家の方やエキストラさん、協力してくださった地元の方々にまたお会いしたいですし、何よりこの映画の感想を伺ってみたいです。あと私はランニングを習慣にしているんですけど、桃の香りに包まれながら走ったら、とても気持ちいいだろうと思いますね!」

『種まく旅人～夢のつぎ木～』
監督：佐々部清 出演：高梨臨、斎藤工他／1時間46分／アークエンタテインメント配給／10月22日より岡山県先行公開 <https://tanemaku-tabibito.com/> ©2016「種まく旅人」製作委員会



EXILE
ÜSA

Dream
Shizuka

2016.7.25

イオンモール岡山 1F
未来スクエア

Photo report

JAPAN MOVE UP special edition vol.



今回、グループとしては2回目となる岡山でのラジオ公開収録にEXILE ÜSAさん、EXILE TETSUYAさん、Dream Shizukaさん。

ラジオ公開収録に応募総数約8000名の中から。

そして、ラジオ収録中に新曲「NEO ZIPANG〜UT

この曲の象徴でもある"ハクルクルダンス"がファンの。

"ハクルクルダンス"を踊り、会場はこ



1.9 special guest DANCE EARTH PARTY!!

開収録。スペシャルゲストはDANCE EARTH PARTYの
んの3名。当日は、約1年ぶりとなるDANCE EARTH PARTYの
当選された600名で会場は熱気を帯びていました。
「AGE～」が流れるとUSAさんとTETSUYAさんから
皆さんに伝授され、Shizukaさんの歌に合わせて全員で
この日最大の盛り上がりとなりました。



photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)



OKAYAMA MOVE UP

2016.7.25

JAPAN MOVE UP special edition vol.9
special guest
DANCE EARTH PARTY



DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

第49回 夏の終わりって寂しさがハンパない

EXILE、EXILE THE SECOND、DANCE EARTH PARTY と、自分が関わるすべてのグループのリリースが8月は重なったので、フル回転な活動でしたが皆さん夏とともに楽しんで頂いていますでしょうか？ リリースイベントやフェスなどで皆さんに直接お会いできる機会がたくさんあったので、最高の夏の思い出が作れて幸せな夏になっています！

少しずつ日照時間が短くなってきたり、夜が肌寒くなってくるとなんだか切なくて胸がキュンとなりますね（笑）。夏の終わりってどうしてこう寂しさがハンパないんでしょうね？ いつまでも終わってほしくない願っても過ぎ去っていく楽しい思い出が、また来年の夏を楽しみにさせてくれる、そんな夏がやっぱり大好きです。

夏が終わればもう年末に向けての準備が始まりますが、その前に改めて皆さんにご報告と言っては大袈裟ですが、今年の始めに受けた左肩の脱臼癖の手術から半年が経ち、リハビリと皆さまの温かい応援のおかげで、正式にドクターに完治のハンコを押して頂きました！

長いリハビリでしたが、自分にとってはとても貴重な時間を過ごせましたし、また新しい身体の使い方や考え方を構築して、NEW TETSUYA に近づ

けたようにも思います（笑）。とはいえ無理しすぎないように気を付けながら頑張らせていただきたいと思いますので、今年の後半の活動も引き続き宜しくお願い致します。

先日、EXILE のニューシングル『Joy-ride-歓喜のドライブ-』がリリースされましたが、この曲はフジテレビ系列リオ五輪中継テーマソングになっていて、たくさんテレビで耳にする事ができました。まずはオリンピック選手の皆さま、本当にお疲れ様でした！ 今回の日本人選手の活躍ぶりは本当に素晴らしいくてたくさんの感動をいただきました。皆さんはどの選手のどんなシーンが好きですか？ あり過ぎてきつと選べないかもしれませんね（笑）。それくらいどの競技もドラマがあって笑顔も涙もキラキラしていて素敵でした。

ほかの国を相手に自分のスポーツという武器で全力を尽くす姿は、心から憧れますし、この世界最大のスポーツの祭典って本当に素晴らしい大会だなあって思います。

もう少しでパラリンピックが始まるのでそちらも本当に楽しみです。最近では E.P.J の活動で、パラリンピックの日本人選手とお会いする機会がたくさんあったので皆さんの活躍を心から祈りながら、応援させていただきたいと思います。

リオのパラリンピックの閉会式が終わると、遂に次は東京なんだなぁと思うとワクワクとドキドキが止まらくなりますね、東京がどんな街になっていくのか楽しみです、世界に向けていろいろな事を発信するチャンスだと思うので、日本を元気にをテーマに活動している EXILE としては、2020 年までに日本はこんなに元気になりました！と世界中の皆さんに感謝をお伝えできるように、自分たちのできる最大限を引き続き考えて活動していきたいと思っています。

EXILE も来月で 15 周年を迎えることができますが、ファンの皆さんから頂いてきたたくさんの応援をこれからも EXILE らしく、皆さんに還元していきたいとメンバー一同思っておりますので、この先の 15 年もどうか宜しくお願い致します。

(TOKYO HEADLINE vol.673 2016.8.22 発行号より)

19 歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYM にてインストラクターを務める。2007 年に、二代目 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009 年 2 月 25 日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年 3 月 1 日に EXILE 新メンバーとして加入し、2011 年には、THE SECOND from EXILE としても活動を始める。また、個人活動として 2011 年に月刊 EXILE にて、自身が所長を務める『EXILE パフォーマンス研究所』の連載を開始する。2013 年、『Best of the year 2013』の受賞を果たす。2014 年 4 月、淑徳大学文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015 年 4 月に EXILE USA が活動を行っている DANCE EARTH PARTY の正式メンバーに選ばれる。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。





2016.7.26
EXILE CUP 中国大会



2016.7.26(tue) 中国大会@ 水島緑地福田公園
サッカー-観戦ラグビー場



2016.7.26 EXILE CUP 中国大会

2016年7月26日、小学4年生から6年生を対象としたフットサル大会「EXILE CUP 2016」の中国大会が岡山県倉敷市の水島緑地福田公園にて開催されました。岡山県では初開催となった「EXILE CUP」。中国大会では、100チーム近くの応募があり、この日は厳選な抽選により、52チームが集まり熱戦を繰り広げました。会場には大会のスペシャルサポーターであるEXILE ÜSAさんを筆頭に、劇団EXILEから青柳翔さ



岡山で初開催!!

ん、小澤雄太さん、八木将康さん、DEEPからRYOさんが駆けつけ、参加者全員で行ったEXILE ÜSAさん考案の「EXダンス体操」や休憩時間には、ボールボーイを務める少年たちと軽くゲームを行うなど会場を盛り上げました。そして52チームの熱戦の末、浦安フットボールクラブ（岡山）が見事中国大会優勝を勝ち取り、9月17日に愛媛県で行われる決勝大会へと進みました。

夢の名前

『夢を持つ人の名前』=『夢名』

大きくも小さくも誰しものが心に熱く持っている『夢』。

OKAYAMA MOVE UP『夢名～DREAM STAGE～』では

そんな夢の途中を駆け抜ける岡山の原石にスポットをあて、
夢への想い、そしてこれから向かう先をインタビューしていきます。



01

DREAM NAME
Interview

ダンサー

のあくれは

平賀 紀有(ひらが のあ) 矢野 紅美(やの くれは)

中学2年生の平賀 紀有、矢野 紅美の2人からなるダンスユニット『のあくれは』。ダンススタジオSTOMPに所属し、メインジャンルはガールズHIP HOP。県内外問わず大会に出場し、数多くのタイトルを獲得。岡山県内のみならず注目のダンスグループである。



02

DREAM NAME
Interview

MAWARU実行委員会 代表/プロBMX選手

太田 祐二

おおた ゆうじ

BMXの世界選手権やFreeStyleFootball、DanceなどのStreet Sportsイベント・大会をメインに全国各地でMC・大会・イベントをプロデュースしつつ、地元岡山では企業説明会や講演会の司会を務め活動中。フランスのBMXのメーカー「Saint martin」の契約をしているプロのBMX選手でもある。



ダンサー

のあくれは

平賀 紀有(ひらが のあ) 矢野 紅英(やの くれは)

県内外問わず、数々の大会でタイトルを獲得し続ける
注目の実力派ダンスユニット「のあくれは」。中学2年生の2人が
ダンスにかかる今の等身大の想いや将来の夢とは。

——「のあくれは」というユニット名で活動をしているお2人なのですが、それぞれがダンスを始めたきっかけは何だったんでしょうか？

くれは(以下、く):保育園の頃からとにかく踊ることが好きで、家でもずっと踊ったりしていたんですけど、その頃からのあもダンスが好きだったので、2人でダンスを始めようとなりダンスを始めました。

のあ(以下、の):お母さんがEXILEが好きで、家によくLIVEのDVDを観ていたんです。その影響で保育園の頃からEXILEと一緒にダンスをしたいという想いがありました。お母さんいわく、私が3才の頃からDVDを観ながら「私あそこと一緒に踊る!」と言っていたそうです(笑)。それを言い続けて、小学校1年生からダンスを始めました。

—— お2人の憧れの人は誰ですか？

く:MIKA先生です。
の:わー!一緒です!(笑)

く:MIKA先生は私たちが通うダンススタジオSTOMPのインストラクターなんですけど、小学校1年生のときからずっとMIKA先生のもとでレッスンをしてもらっていて、常に憧れの存在です。

—— ダンスの楽しさをどんなときに感じますか？

く:すごくいい感じに踊れるときや、思うように踊れないときもあるんですけど、どんなときもすごく楽しいです。あと一番感じるのはダンスを通じている人々と繋がり、みんなと仲良くなれることです。

の:コンテストに出場するときはやっぱり緊張するんですけど、気持ち良く踊れた瞬間の達成感がすごく好きです。

—— これまでもに様々なコンテストで多くのタイトルを獲得しているのあくれはなんですけど、今に至るまでにくじけそうになったことはなかったんでしょうか？

く:のあくれはとして活動を始めた最初の頃ですね。隔週ぐらいで県外のコンテストも含め出場していたんですけど、なかなか結果が残せなくて、本当にすごく悔しかったんです。その頃に、踊ることが単に好きだったという気持ちからダンスに本気になるという気持ちの変化があったかもしれないです。

の:私も同じです。実は私たちは最初は3人でクーピーというユニットを組んでいたんですけど、1人のメンバーが新しいジャンルを学ぶということもあってメンバーから抜けたんですけど、そのメンバーはその後コンテストでタイトルを獲得していて、正直すごく悔しかったんです。その頃からやっぱり「勝ちたい」、「負けたくない」という想いが出てきて、これまで以上に本気で練習をするようになりました。

く:クーピーというユニット名のまま活動を続けるか、名前を変えるかということで小学校5年生になる前までの約1年ぐらい活動を行っていなかった

『感謝の気持ちを忘れず、踊り続けたい。』

んです。それから「のあくれは」という新たなユニットを組むことになり、クーピーの頃から振り付けをしてもらっていたMIKA先生に改めて「のあくれは」としての振り付けを付けてもらうよう2人でお願いをして、振り付けをしてもらえるようになりました。それが小学校6年生だったんですけど、その頃からコンテストでタイトルを獲っていけるようになったんです。

—— 日々切磋琢磨しながら活動をしているお2人ですが、それぞれの魅力を教えてください。

く:ダンスでいうと、踊り方なども違うんですけど、自分には引き出せない部分のあにはいっぱいあって、正直うらやましかったりするんですけど、逆にすごく魅力だと思っています。

の:小さい頃からずっと一緒に分、やっぱり衝突することも多々あるんですけど、いつもどこかで一歩引いてくれるのがくれはなんです。私の最大の理解者であり、最大の相手はくれはなんだと感じます。

—— お2人の今後の夢を教えてください。

く:ダンスはずっと続けていきたいんですけど、私は動物が好きなので、動物に携わることを将来はやっていきたいです。

の:バックダンサーをやりたいと思っています。EXILEのLIVEでバックダンサーをしたいです。そしていつかはE-girlsに入りたいですね!

—— 「のあくれは」としての夢を教えてください。

く:もっと様々なコンテストに挑戦し、結果を残していき、「のあくれは」という名前をもっと多くの方に知ってもらいたいです。

の:絶対2人だけでは今の私たちはないと思っています。お母さん達にも生意気なことを言ってしまったりすることもあるんですけど、小さい頃からずっとダンスを続けさせてもらって、ここまでこれたのはお母さんやMIKA先生がいてくれて、いつも近くで応援、サポートをしてもらえたからです。なのでこれからもずっとこの感謝の気持ちを忘れずにダンスを続けて、また恩返しをしていきたいと思っています。



- 2013年(当時小学5年生)
 - ・～Like it～ シーサイドフェスティバル コンテスト部門第3位
 - ・DANCE TUBE エンターテインメント賞
 - ・TEE バックダンサー
- 2014年(当時小学6年生)
 - ・HUG HUG キッズドリームフェスタ ダンスコンテスト
 - ・DANCE CUP 2014 第3位
 - ・KATANA DANCE CONTEST 特別賞
 - のあくれは2on2 バトル 第2位
 - NOA ソロバトル 第2位
 - ・ALL JAPAN CHALLENGE CUP 2014 関西予選U-12部門第3位
- 2015年(当時中学1年生)
 - ・高松ダンスストリートコンテスト ジュニア部門 最優秀賞
 - ・ブラック三田アー vol.1 bomb shell賞
 - ・Aeo Next Dance Contest vol.1 優勝
 - ・KIDS DANCE FESTIVAL 2015 SUMMER 金賞
 - ・天下一舞踏会 vol.5 準優勝
- 2016年(現在中学2年生)
 - ・EX CHANGE おかやーまんがーるズ19人で挑戦
 - ・THE UNITY 挑戦予定

プロのBMXライダーでありながらイベント企画、運営などマルチな才能を発揮する太田選手。そんな太田選手が今後岡山の街でBMXを通じてやっていきたい夢とは。

—— BMX を始めたきっかけは？

太田祐二（以下、太）：子供のときからバスケットボールをしていたんですけど、自分は団体競技に向いていないと思っていて、高校生になって個人競技で何かできることはないかと考えていたんです。そんなとき学校の帰り道で自転車がパンクし、たまたま近くにあった京橋付近の中山商会という自転車屋さんに修理に行ったんですけど、そこが BMX ライダー達が集うお店で。そこに fourthirty という、自転車界で世界を股に仕切っているアパレルメーカーのビデオが流れていて、率直に“カッコいいな”と思ったんです。そして本当たまたまなんですけど、fourthirty の上原社長が来られて、『自転車やるの？じゃあ買いなよ』というノリから、買ってそのまま練習に行ったんです。そこからずっと上原社長に教えてもらいながら、自転車を始めるようになったのがきっかけです。

—— 太田さんはプレイヤーとしてはもちろん、イベントの企画運営もされています。直近で 9 月に問屋町にて行われるイベントについて詳しくお話を聞かせてください。

太：今回は問屋町まちづくり組合が主催してくれているんですが、オレンジホール内で9月17日(土)～19日(月)の3日間おもしろいことをやって欲しいという依頼をいただき考えたのが、ネット情報社会の今、本物のライブ感を伝えたい!! みんなが本気で戦ったり、負けたくない、もっと上手になりたい、憧れなど、そういった鳥肌の立つリアルなことをやりたいと思ったんです。初日は2歳から6歳までのキッズライダーのランバ



イク、2日目は世界で活躍する日本のトップ BMX 選手を呼んで戦ってもらい、最終日は西日本でも熱量が高いブレイクダンスを行います。会場は普通でいうとなかなか簡単に使用できる場所ではないんです。そんな場所でイベントをできるというのはすごくチャンスなんです。今回イベント名が『MAWARU』なのですが、子どもがレースでマワル、BMX がマワル、ダンスもマワルということを掛けてます。さらにストリートカルチャーのみんなが問屋町の街をマワル、という街をひくくめるめたイベントにしたいという想いでイベント名を考えました。

—— 岡山の BMX に対する熱量はどれぐらいのものなのでしょう？

太：岡山は全国でも BMX の聖地と言われています。全国どこへ行っても岡山から来たというだけで“絶対に上手い”と思われるぐらいで

す。下は6歳ぐらいから男女問わずプロを目指して頑張ってますし、上は60歳ぐらいの方も現役でバリバリやっています。なぜこんなに岡山が聖地と言われるまでになったかというと、僕と昔から一緒にやっていた仲間達が大学や就職などで全国に行って、その場所ではアイコンとなりローカルスターになっているからなんです。

—— 岡山県の何が BMX を上手くさせる要素になっているのでしょうか？

太：岡山は全国でも平地が多い。ハワイの人が目の前に海があるからサーフィンをするように、平地があるから BMX をするといったイメージです。かつ『晴れの国』の言葉通り天候に恵まれ練習のチャンスが多い。また、自転車屋

02

DREAM NAME
interview

MAWARU実行委員会 代表
プロBMX選手

太田 祐二

おおた ゆうじ

『岡山＝ストリートカルチャー』
と言われる街にしていきたい。

も多いので、壊れてもすぐに修理、買うことができる環境があるんですね。そういった要素が BMX をする僕らを助けてくれたのかと思いますね。

—— 岡山県の BMX 人口は？

太：岡山でいうと約 200 人。全国でいうと約 5000 人ぐらいですかね。

—— 日本で行われるようになった時期は？

太：BMX は大きくレースとフリースタイルの2種に区分されるんですけど、僕のようにトリックをするようになったのは、約35年前ごろからですね。最初の歴史を築いたのはアメリカですけど、今では日本が主流です。メーカーも日本が主流ですし、トリックも日本のプレイヤーがつくったものが多いですね。

—— BMX はアメリカ的イメージが強い感じがするのに、日本、さらには岡山が秀でているという現実がある。でもなぜ岡山の BMX 熱量が高いことがまだ周知されていないと思われませんか？



太：僕たちはオフィシャルで乗れる環境がないんです。今僕が行っているスクールは室内でオフィシャルで乗れる環境がないんです。今僕が行っているスクールは室内でオフィシャルに乗れる練習場なんですけど、普段そこら辺の公園で自由に乗れることはなく、練習する環境がなくてメンタルが折れるライダーもいるんです。僕はそれが悔しくて室内練習場を始めたり、今回のオレンジホール内という最高の環境でのイベントを企画したり、その他のイベントを行っています。それは岡山の若手ライダーたちが夢を見れるステージをつくって、日々くじけそうなことがあっても、そこに立ちたいと思える環境をつくりたいからなんです。

—— 太田さんは BMX に出会って、何が変わりましたか？

太：一番思うのは、見る世界と、自分自身で感じる“カッコいい、カッコよくない”という本物を見極める感覚が養われました。あとは世界中どこに行っても友達がいることですね。これはストリートカルチャー特有のものだと思うんですけど、ただ競技が上手くなることってすごく小さいことなんです。それをやる上で絶対に必要なのは、信用できる仲間がいたりする環境なんですね。ストリートカルチャー以外の競技だと、チームが先行してしまうんですけど、ストリートにはそんな仕切りが何もないので、

相手と自分の気持ちだけで繋がる。これが外国に行っても同じで、言葉は話せなくても自転車1つで国境を越えて通じあえるんです。

—— 現在、BMX レースが五輪でも正式種目として開催されているんですが、BMX フリースタイルも五輪の正式種目になると、岡山出身の選手が出場したり、メダルを獲得の可能性はありますか？

太：岡山出身の選手が出場する可能性は非常に高いです。また、僕がやっているフリースタイルの BMX フラットランドというジャンルは世界基準でも日本は世界一です。なので金メダルを獲得の可能性というのは非常に高く、岡山出身の選手がメダルを獲得ということは大いに考えられますね。

—— 今後 BMX を通じて、やっていきたいこと、また伝えていきたいことは何でしょうか？

太：やっていきたいこととしては、自分自身 33 歳なのでプレイヤーとしては正直限界はきていると思います。ただ 35 歳ぐら



いまでは、自分を目指してくれている選手たちに『本物とは何か』を教えながら、育てた選手が世界選手権や五輪に出場し、挑戦する姿を見て、感動して泣きたいです(笑)。彼らの人生の中で僕が何かのきっかけになり、自分自身が BMX から離れたとしても、僕が戻る場所に BMX というカルチャーがあり続けてくれたらいいなと思っています。そのために環境や、夢を見れる場所をどんどん作っていききたいですね。

—— では最後に今後の夢を教えてください。

太：BMX に出会える環境、乗れる環境があって、僕は本当に岡山という街に生まれてよかったと思っています。なので僕みたいに岡山に生まれてよかったと誇りを持てる環境をストリートカルチャーを通じて見つけて欲しいです。9月に行うイベントは様々な企業様が、僕のストリートカルチャーに対する情熱を理解して協力してくれています。その方たちと今後とも、若手や子どもたちが夢を見れる環境をどんどんつくり、『岡山＝ストリートカルチャー』と言われる街にしていきたいです。これは僕だけではなく、全国にいる岡山のライダーやスケーター、クリエイター達の夢でもあります。

photography:西川 一博

衣装提供:DECADE OKAYAMA

太田 祐二 公式Instagram:@otayuji

OKAYAMA MOVE UP PRESENT'S

MOVE UP MUSIC

powered by



人生が「アがる」一曲を、あなたに。

vol.8

朝一番に聴きたいアがる1曲!!

平日、休日で聴きたい曲が違ったり、平日でも天気や季節、

気分によって聴きたい曲は変わってきますが、どんなときでも音楽を聴くことで元気が出たり、リフレッシュできますよね。

特に、朝聴く音楽はその日の始まりに大きく影響する気がします。

さまざまなシチュエーションのアがる曲と共に、今日も1日張り切っていきましょう♪



Album Title

YELLOW DANCER

Airtist

星野源

Comment from TSUTAYA

おすすめは”SUN”。爽やかな天気の良い朝にぴったりなダンスナンバー。ドラマ「心がポキッとね」の主題歌にも起用されており、人気の高い1曲。一度は耳にしたことがあるかたも多いのでは！



Album Title

1989

Airtist

ティラー・スウィフト

Comment from TSUTAYA

おすすめは”Shake It Off”!とにかくテンションのアがる1曲。悪い噂に頭を悩まさないでそれを振り払って「“シェイク・イット・オフ”して前向きにいこう!”という前向きなメッセージが込められた楽曲！



Album Title

Just LOVE

Airtist

西野カナ

Comment from TSUTAYA

おすすめは”Have a nice day”「めざましテレビ」のテーマ曲としても起用されており、朝にぴったりな1曲。”がんばれ私!がんばれ今日も!”の歌詞に自分を重ね、歌ってほしい1曲!励まされます！



Album Title

Life is Beautiful

Airtist

平井大

Comment from TSUTAYA

おすすめは”Life is Beautiful”CMタイアップで注目度が一気に上がったアーティストです。心地よいウクレレのサウンドにやさしい歌声に癒されること間違いなし。休日の朝聴いてほしい1曲。



Album Title

ソングス・アバウト・ジェーン

Airtist

マルーン5

Comment from TSUTAYA

おすすめは”Sunday Morning”。全世界で大ヒットを記録したマルーン5の名曲。曲名の通り、日曜の朝に聴くのもおすすめですが、平日の爽やかな朝に目覚めたいときにぴったりな1曲。



Album Title

TRUE

Airtist

アヴィーチー

Comment from TSUTAYA

おすすめは”Wake Me Up”。mizuhoのオリンピックCMにも起用されており、耳にして気になった方も多いはず!アルバム全体バラエティに富んでいてスタイリッシュなEDM。朝からアガること間違いなし!



Album Title

ファンキーモンキーベイビーズBEST

Airtist

FUNKY MONKEY BABYS

Comment from TSUTAYA

おすすめは”ヒーロー”。サラリーマンの応援歌といわんばかりの熱い歌詞にアップテンポな曲で朝から気合が入ります。働いている方は共感できる方も多いのでは?気合を入れたい朝におすすめの1曲。



Album Title

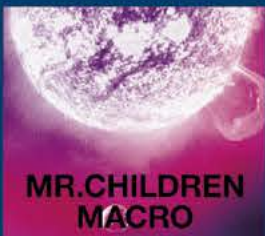
Da Best Of Da Pump

Airtist

DA PUMP

Comment from TSUTAYA

おすすめは”こぎげんだぜっ!”。問答無用にゴキゲンになれる1曲。曲の始めから終わりまでずっとハイテンション!テンションを上げたい朝におすすめの1曲



Album Title

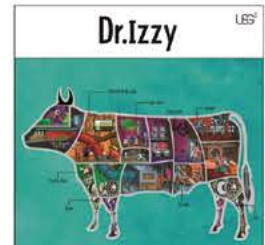
Mr.Children 2005-2010<macro>

Airtist

Mr.Children

Comment from TSUTAYA

おすすめは”彗星”。発売から約10年ですが、名曲は時を経ても輝きを失わない。ミステルの名曲は数あれど、爽やかで明るい元気になれるおすすめの1曲。元気を出したい朝に聴きたい1曲です。



Album Title

Dr.Izzy

Airtist

UNISON SQUARE GARDEN

Comment from TSUTAYA

おすすめの1曲は”シュガーソングとビターステップ”。テレビアニメ「血界戦線」エンディングテーマにも起用され人気に火をつけた1曲でもあります。PVのコンセプトが、朝の目覚めなのでテーマにぴったり!

シンガーソングライター
Vol.13 吉永 拓末「エンターテイナーとして、
世の中にある楽しいことをたくさん発信していきたい！」

Starting Point — 音楽をやり続ける理由—

「音楽をするのが自分のなかで一番楽しいと思った」

玉川：まず、吉永さんがミュージシャンになったきっかけを教えてください！

吉永：もともと僕は音楽と体育が凄く好きだったんです。その教育という観点からその2つに触れていたんだけど、進路を選ぶ時に、音楽の先生になるか、体育の先生になるかっていう分かれ道が来ました。僕は当時、体育大学に通っていたんだけど、いろんなことを経験していくうちに思っちゃったんですね、音楽っていうのが自分のなかでは一番楽しいぞって。それで思ったわけです、音楽が仕事になったらいいな！と。

玉川：音楽を仕事にしていくということ。吉永さんは、そういったなかで今は何を大切に活動されていますか？

吉永：まず、大前提として「感謝する気持ち」が大切だと思っています。自分たちの歌を聴きたいと思ってきている人たち一人一人が、それぞれ価値を見出してくれる音楽、そういうものを発信していきたいという気持ちは強く持っています。決

して歌唱力があるとか、ステージングがうまいとかだけではなく、例えば、30 分、1 ステージという時間、聴いてくださっているお客さんから、お金をいただけるだけのものをちゃんと発信できているか。心からその瞬間をしっかりと楽しんでくれているか。当たり前であり、すごく大切なこと。

玉川：先日は 300 人超のワンマンライブを成功させていましたね……！

吉永：正直、300 人近く集まってくれるライブになる自信はなかったんです。自分の中でも、いつもと桁が 1 つ違っていただけ（笑）。でもあれば、吉永拓末のファンとしてみんなが来てくれてたわけで、そう思うと、（ミュージシャンとして）改めてスタートを切れた瞬間だったかなって思います。よし、これからも頑張っていこう！という気持ちになれた、そういうライブでした。ライブは決して一人じゃ成立しない。共演者やスタッフ、何より聴きにきてくださるみなさんあってこそそのモノですから。

吉永 拓末（よしなが たくみ） 岡山県倉敷市出身。岡山県を拠点に地元から全国に発信するシンガーソングライター。2014 年 3 月にリリースされた CD をきっかけに、メジャーアーティストとの共演やラジオ番組のメインパーソナリティーを務める等、多岐に渡って活動している。アーティストとしての活動に加え、総合音楽事務所「Office KIKOE」を立ち上げ、他アーティストの編曲やプロデュース、レコーディング、CM 楽曲の提供、音響、イベントのプロデュースを手掛ける等、幅広く活動の場を持っている。2014 年に「倉敷ふるさと大使」に任命され、音楽を通して地元である倉敷の PR 活動を全国で展開中。twitter @ysngtkm

Make Your Dreams come True — 夢の叶え方—

「言葉にして、紙に書けば、次の目標に現実味が出てくる」

玉川：大きな夢を叶えていくというよりも、どんどん確実に形にしていく。吉永さんのように実践し形にしていくための、秘策やコツがあれば教えてください！

吉永：う〜ん、例えば、僕はまず年頭に今年の自分はどうしていきたいかってことを紙に書くんですよ、パソコンとかじゃなく自分の手を使ってしっかりと。そうすると自分がどこの地点からスタートしていて、どこまで来てるのかが明確に分かる。自分で書くことで、次の地点にはどうしたら行けるのかとか、次の目標も現実味を帯びやすくなってくる気がするんです。

玉川：そういえば日本ハムの大谷投手なんかも、自ら目標を紙に書くことが大切と話していることを聞いたことがあります。

吉永：うん！ 目標を紙に書く、それととにかく直接言葉にするってことも大切だよな。少なくとも、僕についていえば「僕は音楽で生きていきます」のようなことね！そんなの絶対無理だろうって周りから言われ続けながらも言い続けていく。そうすることが自分にとってのモチベーションにも

なっている気がします。自分に言い聞かせるという意味でも、自分が踏み出す新しい一歩だったと思うし、今もそう思っています。

玉川：自らがシンガーソングライターである傍ら、総合音楽事務所の立ち上げ、プロデュース業、音響、楽曲提供、レコーディング、ラジオパーソナリティー、ライブバー経営、そして倉敷ふるさと大使と、活動の幅がものすごく広い!!

吉永：はは（笑）。いちエンターテイナーとして、こういう変化もあるよ、あんなものもこんなものもあるよってことを、みなさんに届けていきたい。僕は、自分の好きな音楽っていうものを総合的に見て楽しんでもらいたい、ただそれだけ。今こうやって話していて感じたんだけど、僕が人生のなかで音楽が 1 番好きかって言われると、ちょっと違うってなるって。1 番は何事も楽しみたいってことなんですよ。楽しみがメインにあって、音楽はその楽しみ方を伝えるためのツール、そんな感じです。

玉川：そんな吉永さんの、今後の夢は？



吉永：自分のしたいことをしながら生きていく。夢が何かなんてあまり深く考えたことがないから……。例えばさ、忙しそうだねとか、寝てないんじゃないの？ なんてよく言われたりしますが、そう言われる生活をしていたとしても、自分は忙しいと

思ったりしていない。したいことをしているから充実しているんですよね。人生は楽しくなきゃ!! ただ僕はちゃんと寝てますよ！（笑）睡眠はどんな仕事をこなしていく上でも一番大切なことですから!!



2014 年 4 月、2 枚目となるミニアルバム「フレンドシップ」をリリース。RYO-HEY、福井相奈、たけべしうごといった岡山出身アーティストとのコラボ曲も収録された渾身の一枚となった。6 曲入り ¥1500（税抜）

吉永拓末バースデーワンマンコンサート 2016

【日時】2016 年 11 月 23 日（祝・水） 開場：14 時 開演：15 時【場所】児島市民交流センタージーンズホール（倉敷市児島味野 2 丁目 2-38）
【チケット】¥3000（小学 6 年生まで ¥1,500、3 歳までは膝上観覧で無料）
【チケット購入】山陽新聞社サービスセンター（086-803-8222）、吉永拓末ワンマンライブ実行委員会（090-8069-9052）officekikoe@gmail.com
児島市民交流センター（086-474-8550）

岡山ムーブアップ学生チーム 活動報告

OKAYAMA MOVE UP STUDENT TEAM

activity report



《第一回》 学生チーム ミーティングを 初開催しました!!

先日、第一回目となる学生チームのミーティングを行いました! 現在、23名の学生のみなさんが参加してくれている学生チーム。今後、学生チームは企画・制作と広報の二つの組織にわかれて”学生がつくる、学生のための”岡山を元気にするイベント・ボランティアを作り上げていきます! 学生目線で、学生だからこそできる活動を行って「岡山の若者が岡山を元気に」していきます!!



《JAPAN MOVE UP》 ラジオ公開収録イベ ントにスタッフとして 参加しました!!

学生チームは初の活動として、ラジオ公開収録のイベントスタッフに参加しました! 当日は8名の学生チームのメンバーが参加し、主に会場整備やイベント中の撮影禁止の呼びかけなどを行いました。学生チームは、岡山を元気に盛り上げるため、さまざまなイベントや社会的活動に参加し、イベントなどの企画・運営なども行っていきます。今後の学生チームの活動にご注目ください!



今回、OKAYAMA MOVE UPのイベントに学生チームは初めてスタッフとして参加させていただきましたが、会場設営からイベント終了まで、普段の学生生活では経験できないような貴重な経験をすることができました。会場に来ている方たちの笑顔や熱気は今までに感じた事のないものでした。イベントスタッフとして感じた事を学生チームの活動にも活かしていきたいと思っています。

(岡山商科大学／山本 凌)

《OKAYAMA MOVE UP》 公式Twitter & Instagramははじめました!!



@okayamamoveup

イベントやフリーペーパーの最新情報やここでしか見ることができないコンテンツも随時アップしていきますので是非チェックしてみてください!



#okayamamoveup

メンバー紹介



渡辺 修(左)
岡山商科大学: 島根県出身
地域の方との繋がりを大切にして、
岡山の魅力を全国に伝えたいです!

前田 泰史(右)
岡山商科大学: 広島県出身
岡山を盛り上げられるよう、頑張ります!



岡山と一緒に盛り上げてくれる
学生の皆さんをお待ちしています!!

《応募方法》

(1)お名前 (2)お住まい(市) (3)電話番号 (4)学校名/学部/回生

OKAYAMA MOVE UP公式Facebookメッセージまたは、OKAYAMA MOVE UP公式Twitterダイレクトメッセージより上記必要事項をご明記の上、お気軽にご応募ください。

※あくまでボランティア活動です。

※個人情報に関しては、活動以外の目的には一切使用いたしません。

※岡山県出身または在学中の大学生、短大生、専門学生の方のみとさせていただきます。

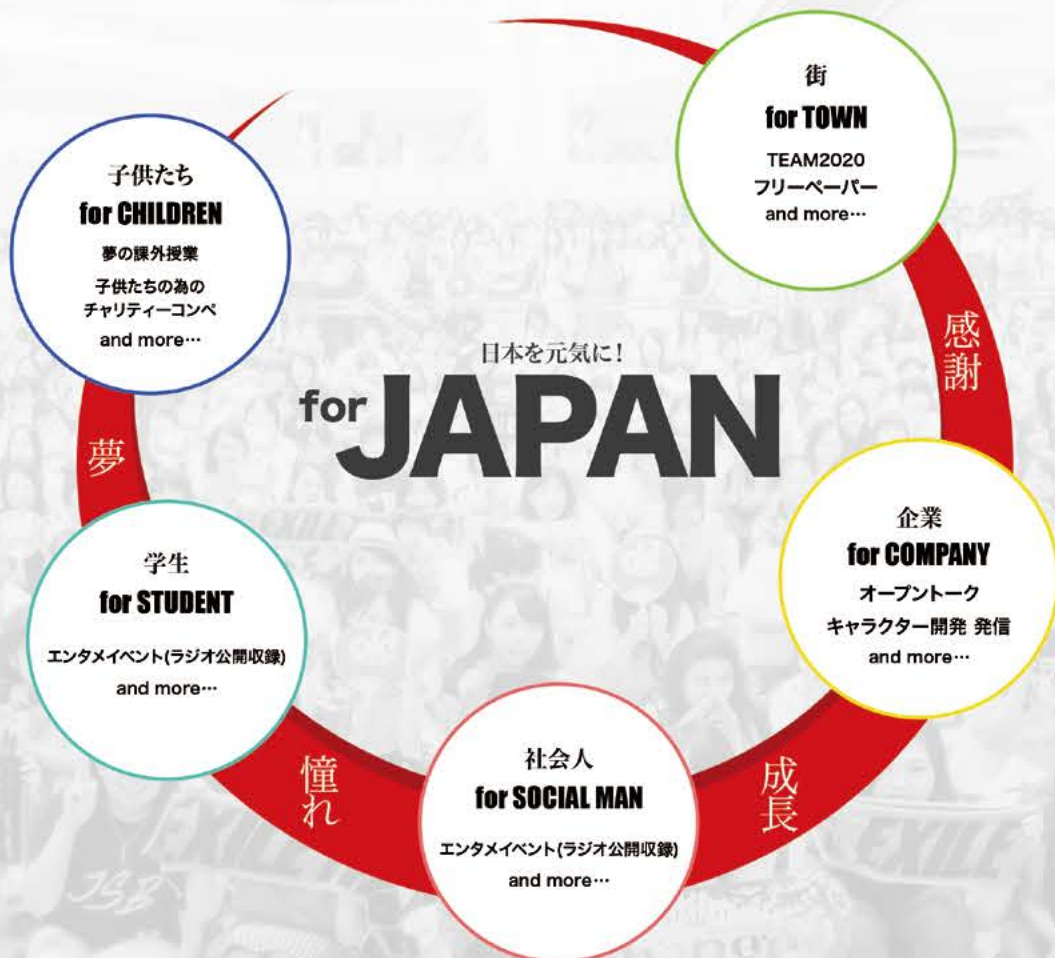
OKAYAMA MOVE UP

岡山から日本を元気に!

『岡山を元気に!』『岡山から日本を元気に!』をコンセプトに、フリーペーパーOKAYAMA MOVE UPの発行をはじめとし、各種イベントを実施するなどエンタテインメントを中心に岡山を盛り上げる活動を行っています。
この活動が意義あるものとして皆様方によりご賛同頂けるよう、「岡山県民が元気になる」「岡山県民が岡山を好きになる」「他府県の方々が岡山の良さを知ってもらう」事を目的としています。

「日本を元気にする為に、まずは岡山が元気になろう!」

その為に何が必要か?子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける...それが企業を街を発展させ、岡山を元気にしていく事だと確信します。
さらに TOKYO MOVE UP との連携による中央とのネットワークを生かしたコンテンツを創造し、若年層への「認知の拡大と巻き込み」を実現します。
また地方創生のモデルのひとつとして「社会的活動」と「エンタテインメント」、「スポーツ」の融合による岡山を元気にするプロジェクト、それが OKAYAMA MOVE UP です。



OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧 (2016年9月11日現在)



株式会社 祥

株式会社 DMM.com

有限会社 ル・クルジャポン

special partner



イオンモール岡山



54 JAPAN MOVE UP WEST

OKAYAMA MOVE UP

隔月誌【オカヤマ ムーブアップ】 2016年9 月11日発行 vol.22 SEPTEMBER

●発行人／源 眞典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
●発行所／株式会社HEADLINE WEST
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
●編集・製作／株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6/VILビゾン3 403号

